

14 男性の衣装

フラメンコ衣装というと、華やかな女性衣装ばかりが目立ちがちですが、男性の衣装にも目を向けてみましょう。

お祭りの衣装

アンダルシアのあちこちで開かれるお祭り、フェリアでは女性はフラメンコ衣装、トラヘ・フラメンカとよばれる衣装に身を包みます。細かく言えば、舞踊用の衣装とは違うところがあるけれど、フリルなどで飾られた華やかな衣装です。では男性は？ 女性のフェリア衣装に相当するのはトラヘ・コルトでしょうか。ウエストの高いパンタロンに白いシャツ、丈の短いジャケットというコンビネーション。フラメンコ舞踊の衣装としてもお馴染みの格好です。トラヘ・コルトにソンプレロ・デアラ・アンチャ、つば広の帽子をかぶった人はフェリア会場などでたくさん見かけます。ただし、昼間、馬や馬

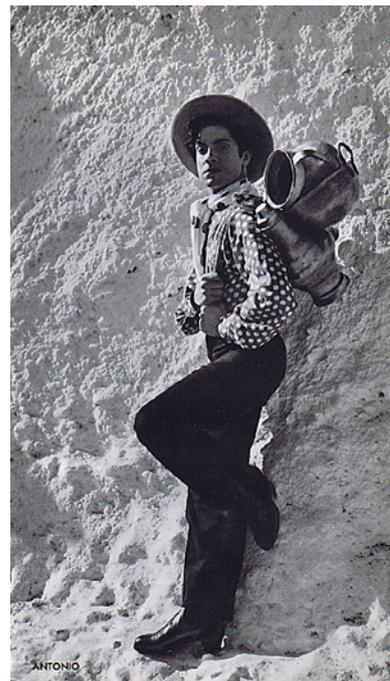
車に乗っているという条件が付きます。子供以外で、馬と関係なしにそういう格好をしている男性はまずいません。

トラヘ・コルト

女性のフラメンコ衣装と対をなす、トラヘ・コルトはもともと、牛馬の市や闘牛牧場で働く人たちの仕事着から始まったと言われ、闘牛との関連も指摘されています。馬に乗る時上着が長いと邪魔なので、短い丈となったそうです。フラメンコ舞踊の始まりの頃のバイラオール、男性舞踊手たちの写真をみると、ほぼ全てがトラヘ・コルトを着用しています。アンダルシア生まれのフラメンコがこれを衣装としたのは自然の成り行きだったのでしょうか。馬上での仕事着は色も黒や紺など地味なものが主で、飾りもないそっけないものですが、お祭り用にはワインレッドなど華やかな色も使われ、刺繍や房、モール飾りなど、闘牛士の衣装のような装飾がついたものもあり、フラメンコ舞踊の衣装としてはそのどちらも使われます。また、舞踊の場合、体の動かしやすさからでしょうか、ジャケットなしで、腰高のパンタロンにブラウスにベスト、というパターンも多いのはご存知の通りです。

“ヒターノ”風

お祭りの時の、小さい男の子たちの格好では、トラヘ・コルトのほかに、パンタロンに水玉のシャツという“ヒターノ”風があります。シャツの裾を結んだりしているのを見たことがある人もいないのでしょうか。これは、おそらく劇場フラメンコで“ヒターノ”を演じる時に使われたことから始まったのではないかと思います。グラン・アントニオ舞踊団などの公演



ヒターノ風
 フラメンコ史に燦然と輝く大スター、グラン・アントニオもヒターノ風の装いで。

でも衣装として使われ、水玉でない無地のシャツとパンタロンという組み合わせもありますが、これはトラヘ・コルトからジャケットとベストがなくなったものとも思えます。現在では時代を感じさせる、など以外では舞台で使われることはあまりありません。

スーツから普段着まで

男性舞踊手ならトラヘ・コルト、とバイラオールの制服のようだった時代が長く続きました。普通のスーツで踊る人も出てきたのは60年代後半からでしょうか。誰が最初だったかはわかりません。でもファルーコやラファエル・エル・ネグロが先駆者であるのは間違いないのではないのでしょうか。彼らとマティルデ・コラルとのグループ、ロス・ボレーコススは60年代終わりから70年代にかけて活躍しましたが、普通のスーツで踊っています。またドラマの設定ゆえかもしませんが1974年のアントニオ・ガデス舞踊団『血の婚礼』ではトラヘ・コルトではなく普通のスーツが使われています。84年スペイン国立バレエ『メデア』でもそうですね。その後、ソフトスーツが流



©BNE Jesús Vallinas

トラヘ・コルト
 グラン・アントニオ振付『サバテアード』は昔ながらのトラヘ・コルト。華やかなベストは闘牛士のような。



スーツ
スーツで踊るファルーコ、マティルデ・コラル、ラファエル・エル・ネグロのロス・ボレーコス。

行った90年前後にはアントニオ、カナーレスやホアキン・コルテスなどもスーツで踊り、それが普通になっていました。今では、トラヘ・コルトで踊るの方が少数派で、スーツもしくは普通のパンタロンにシャツというのがスタンダードになりました。ジーンズやTシャツなど普段着のままのような格好で踊る人もいます。街で買った吊るしのパンタロンの場合、ポケットがあつたりで、踊ると腰に変なシワが寄ることもあります。

スカート

ホアキン・コルテスが『ジブシーパッション』で見せた、上半身裸でバタ・デ・コーラという衣装は強い印象を残しましたが、男性がスカートをはいたのは何も彼が最初ではなく、アントニオ・ガデスは1981年『ランゴ』という作品でベルナルダ・アルバ役でスカートをはいて踊っています。現在ではマ

ヌエル・リニャンがバタ・デ・コーラの名手として知られます。バタに限らず、スカートでしかできない表現もあり、女性がパンタロンをはくのだから男性のスカートも、もはや特別なことではないようにも思います。

歌手やギタリストの衣装

舞踊のバックを務める、歌手やギタリストの衣装は白いシャツに黒いズボンというのが多いのですが、これはスペインのバルやレストランのウエイターの制服と同じです。それほどありふれた格好で、主役を立てるといことなのでしょう。シャツは黒で揃えることもあり、どんなミュージシャンも白と黒のシャツは衣装として持っているものです。なお、カンテソロの場合は男性はスーツが多いですが、途中で上着を脱いで、のってきたよ、という感じを出すこともあります。女性はフラメンコ衣装の人もあれば、フォーマルドレスの人もあります。



2007年のシカゼカデイスの劇場楽屋でチョンチ・エレディアと。その後パコ・デ・ルシアとも共演するチョンチの優しくてフラメンコな声大好きです。

志風恭子／1987年よりスペイン在住。セビージャ大学フラメンコ学博士課程前期終了。パセオ通信員、通訳コーディネーターとして活躍。パコ・デ・ルシアをはじめ、多くのフラメンコ公演に携わる。



©Oscar Romero/ Bienal

現在
そのまま街に出かけそうな格好で、劇場で踊る。ちなみにファルキートはスーツで踊ることが多いです。